

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭総合	1・2年 農業環境科	4 単位	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	資料集 最新生活ハンドブック 資料&成分表 (第一学習社)

到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
------	---

評価の観点	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査。 ・ワークシートや作品、レポートなど課題の提出物が期日を守り提出されているか・その内容は充実しているか。 ・授業態度、実験・実習等に主体的・積極的に参加しているか。 ・ホームプロジェクトの提出とその達成度。 	以上の事柄を多角的・総合的に判断し、評価する。
-------	--	-------------------------

単元	学習内容	到達目標
1章 自分らしい人生をつくる	<ol style="list-style-type: none"> 1.生涯発達の視点 2.青年期の課題、目標を持って生きる 3.人生をつくる 4.家族・家庭を見つめる 5.これからの家庭生活と社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を単位としたライフステージがあり生活課題があることを理解し、自分の人生について考える。 ・多様化しつつある現代の家族の特徴、家族の機能の変化、民法について理解する。 ・家事分担を通して、多様化する家族像・自立・労働・などについて理解する。
2章 子どもと共に育つ	<ol style="list-style-type: none"> 1.命を育む 2.子どもの育つ力を知る 3.親として共に育つ 4.子どもとの触れ合いから学ぶ(乳児ふれあい体験、保育見学) 5.これからの保育環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達の特徴を、家庭や環境との関わりをとおして理解し、子どもの成長に関わる立場である親や家族の役割と責任を考える。 ・赤ちゃんふれあい体験、保育実習を通して、乳幼児への理解を深める。 ・少子社会における子育て支援・児童福祉の意義について理解する。 ・子どもの発達と環境との関わりについて認識し、これからの保育のあり方について考える。
3章 高齢社会を生きる	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢期を理解する 2.高齢者の心身の特徴 3.これからの高齢社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による高齢者の心身の特徴について知り、高齢者の自立を支える家族の役割と責任を考える。 ・シニア体験などへの取り組みをとおして高齢者の身体状況への理解を深め、相手の立場や気持ちを思いやることは自分を大切にすることもであることを理解する。
4章 共に生き、共に支える	<ol style="list-style-type: none"> 1.私たちの生活と福祉 2.社会保障の考え方 3.共に生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障がい者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか考える。
5章 経済生活を営む	<ol style="list-style-type: none"> 1.職業生活を設計する 2.国民経済・国際経済と家庭の経済生活 3.現代の消費社会、契約トラブル 4.これからの消費生活と環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響を及ぼしていることを理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題等について理解し、消費者としての適切な判断ができるようにする。 ・消費者基本法等の消費者保護の仕組みについて理解する。 ・多様化する現代の消費生活の課題について認識し、ひとりの消費者として、主体的に考え行動することの必要性について理解できる。 ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識できる。
6章 食生活をつくる	<ol style="list-style-type: none"> 1.食生活の課題について考える 2.食事と栄養・食品 3.食生活の安全と衛生 4.生涯の健康を見通した食事計画 5.調理の基礎 調理実習 ・食物調理技術検定の受験 6.食生活の文化と知恵 7.これからの食生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活の現状を把握し、食と健康のかかわりについて考える。 ・食品の栄養的特徴と調理上の性質について、基礎的なことを理解している。 ・食の安全について理解する。 ・健康で安全な食生活を営むための食物に関する基礎的知識や技術を身に付け、実践することができる。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。 ・家庭経営の立場から、家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。 ・食物調理技術検定4級受験
7章 衣生活をつくる	<ol style="list-style-type: none"> 1.被服の役割を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の起源、衣文化、衣服のはたらき、被服材料の特徴について理解する。

<p>8章 住生活をつくる</p> <p>9章 生活を設計する</p> <p>ホームプロジェクトの実践 学校家庭クラブについて</p>	<p>2.被服と表示、材料、性能 3.被服を管理する 4.被服を作る 被服製作 5.衣生活の文化と知恵 6.これからの衣生活</p> <p>1.住生活について考える 2.住生活の計画と選択 3.住生活の文化と知恵 4.これからの住生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭経営の立場から、家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。 ・実習を通して基礎縫いの技術を身につける。 ・被服製作を通して、自分の技術に合わせて、自分らしさを表現することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。 ・住生活と環境、住居の設計などに関する知識を身につけ、自分や家族の1日の生ライフステージに応じた、快適な住生活について考える。 ・自分に適した住空間について考え、デザインできる。 ・身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランガイドを用い、自分の未来を描く。 ・自分の生活を見直し、生活設計ができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトを計画に基づき、自主的に解決を目指して実践することができる。 ・学校家庭クラブ活動について知り、日ごろの学科での学びも含め、積極的に実践することができる。 ・近隣の園児へ手作りおもちゃのプレゼント。近隣駅待合室の手作り座布団の製作。
---	---	--